

中野区基本構想関連資料

中野区の現状に関する参考資料

【抜粋】

中野区基本構想審議会 都市・防災・環境部会 第2回配布資料(令和元年5月9日開催)

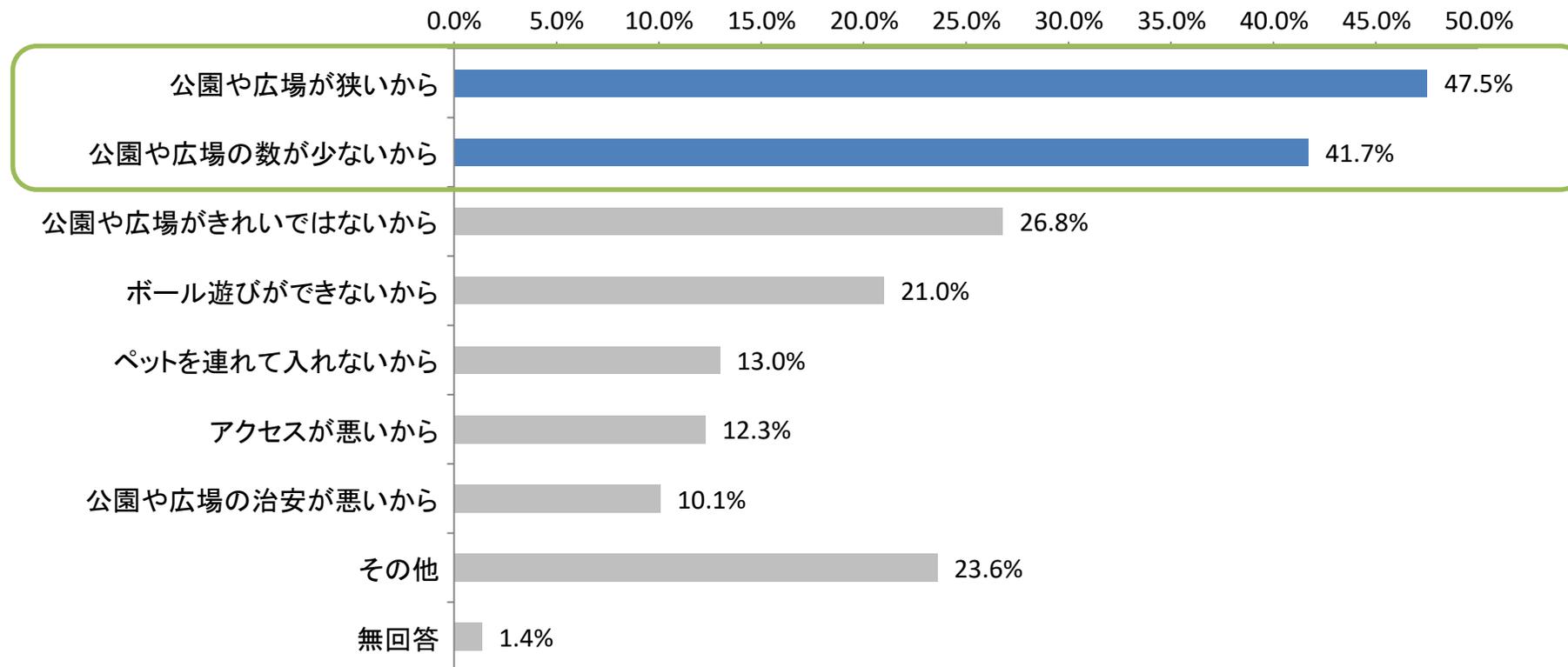
快適で魅力ある住環境

【抜粋】

公園に対する不満理由

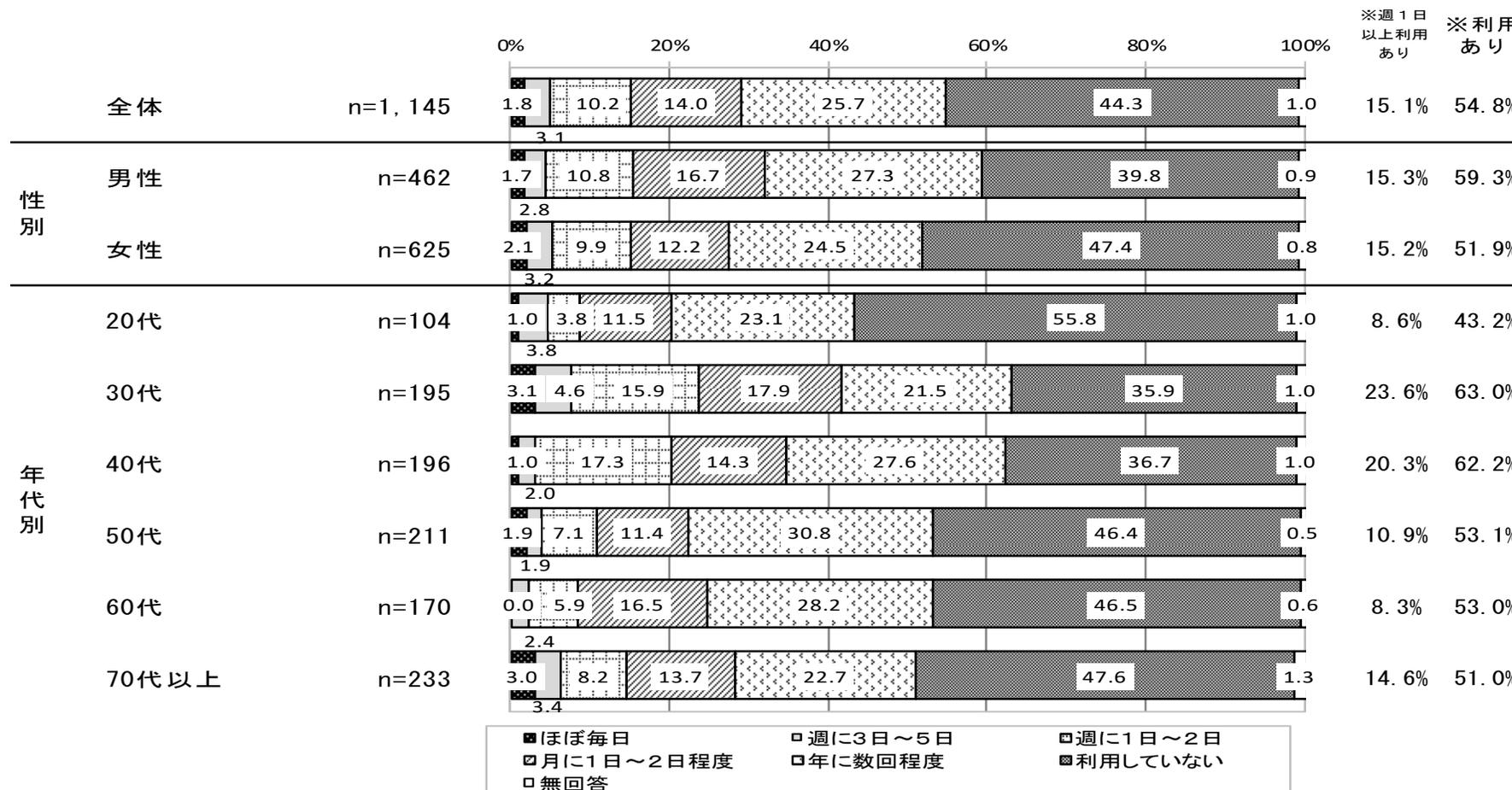
公園や広場の狭さや数の少なさから不満を持つ人の割合が多い。

区内の公園や広場に不満を感じる理由は何ですか【複数回答可】(N=276)



性別・年代別にみる公園の利用頻度

性別にみると、男性で《利用あり》がやや高くなっている。年代別にみると、《利用あり》は30代と40代でそれぞれやや高くなっている。



災害に強い都市

中野区の地域危険度

地域危険度とは、

都内の市街化区域5,177町丁目について、地震に関する危険性を測定し、相対評価により5段階のランクを割り当てたもので、

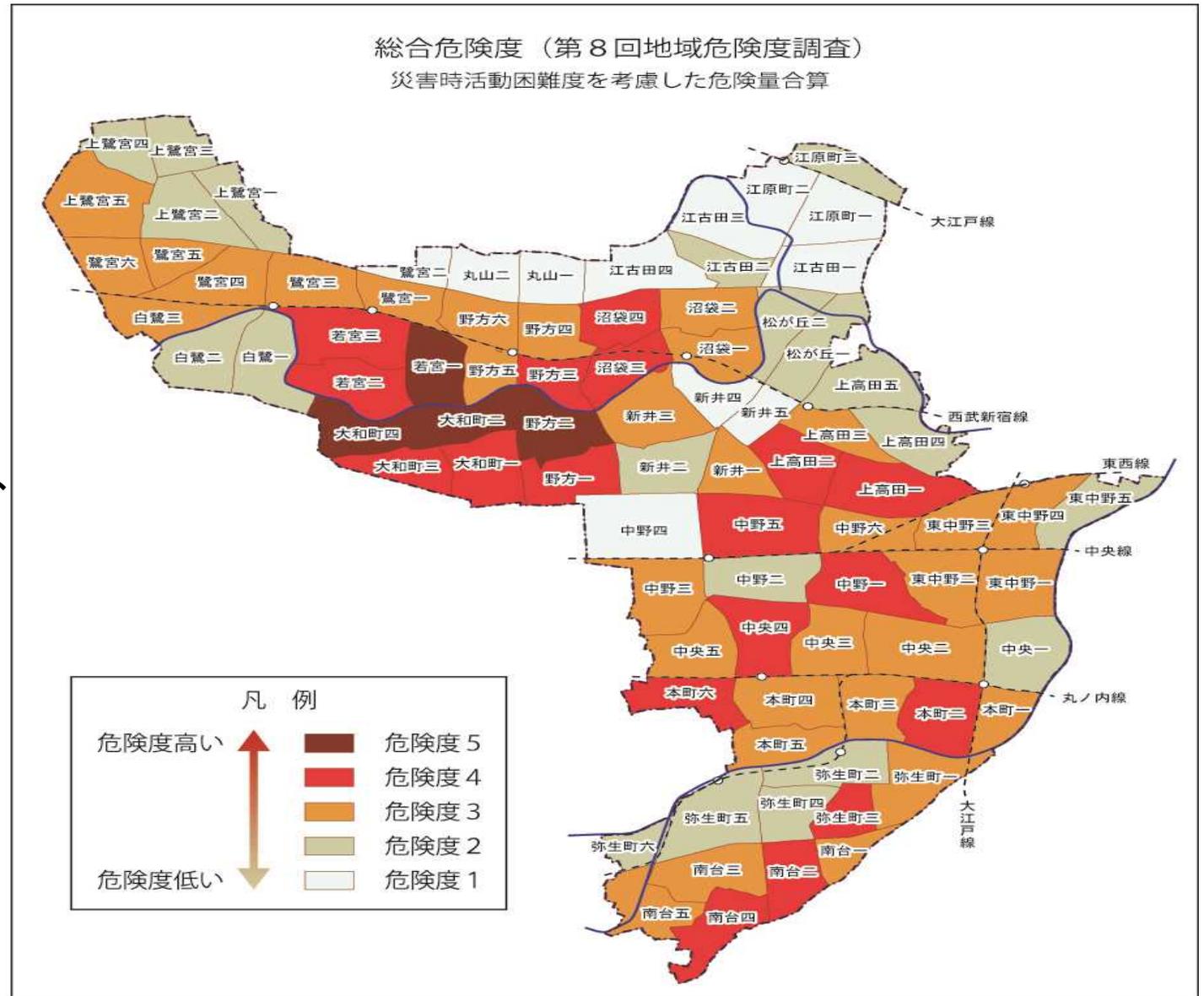
ランク5が最も危険度が高く、ランク1が最も低い。

第8回調査報告(平成30年2月)によると、中野区では、総合危険度で

危険度5が4町丁目

危険度4が18町丁目

となっている。

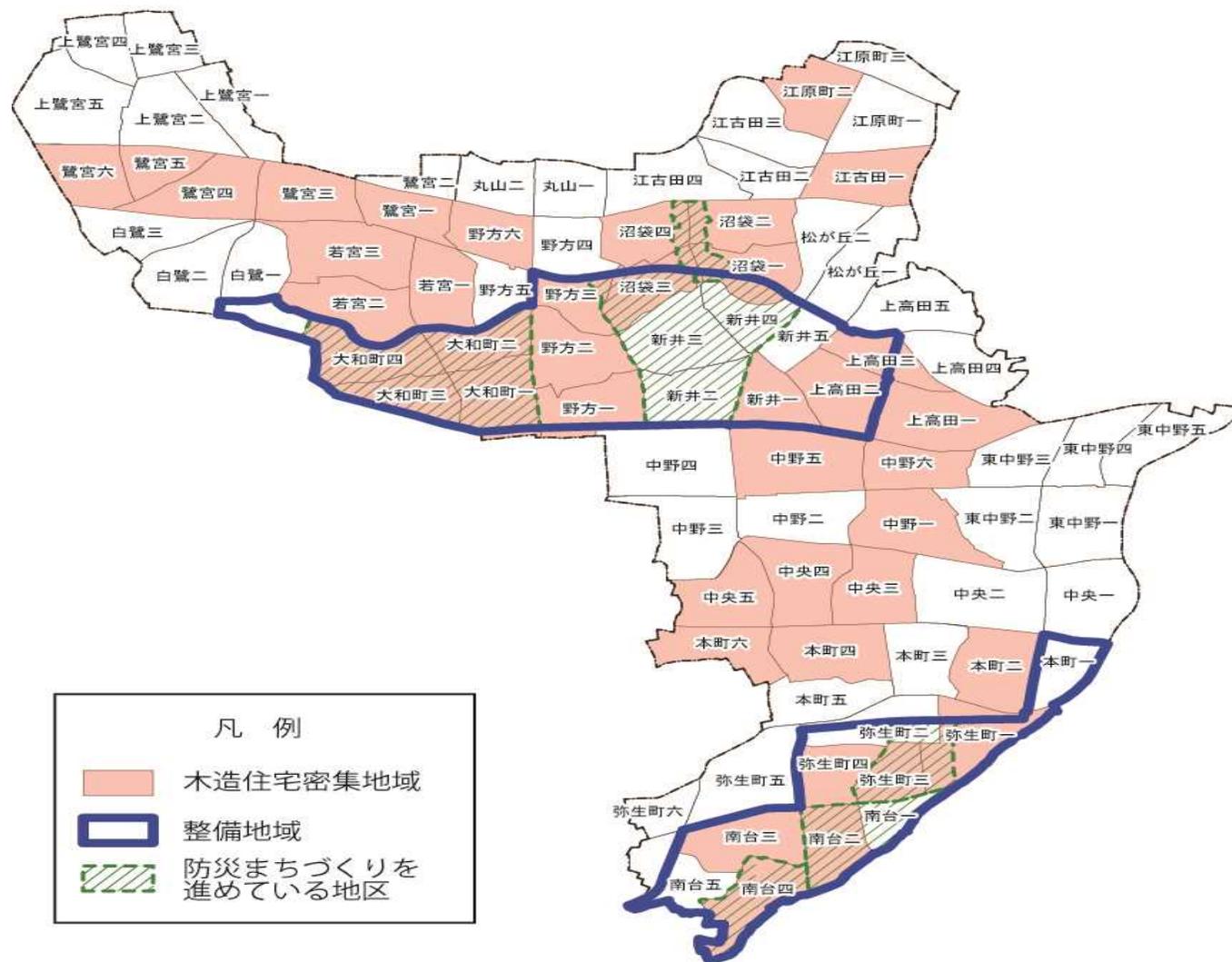


木造住宅密集地域

東京都防災都市づくり推進計画では、震災時に延焼被害のおそれのある老朽木造住宅が密集している地域(都内合計約13,000ha)を木造住宅密集地域に指定。

中野区内では41町丁目が該当

中野区における木造住宅密集地域と整備地域



整備地域

東京都は、地域危険度が高く、震災時に特に甚大な被害が想定される地域を整備地域とし、防災都市づくりに係る施策を展開する区域とした。

都内全体で28地域、合計約6,900haが指定されている。

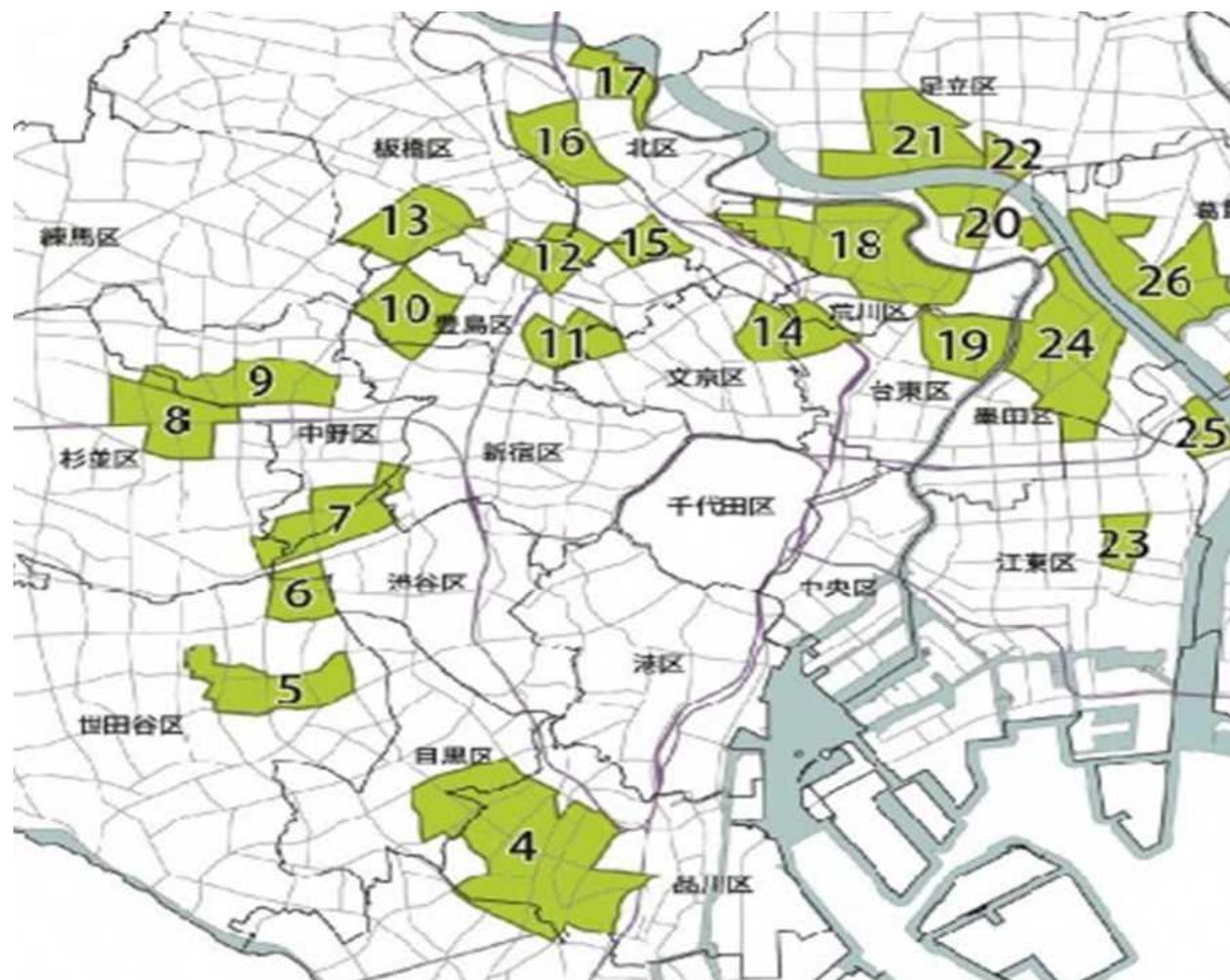
中野区内では2地域が整備地域に指定

⑦南台・本町(渋)・西新宿地域
(約300haうち中野区内約143ha)

⑨大和町・野方地域
(約270haうち中野区内251ha)

※区では、整備地域内の6地区で防災まちづくり関連事業を進めている。

中野区周辺の整備地域



首都直下地震等による中野区の被害想定

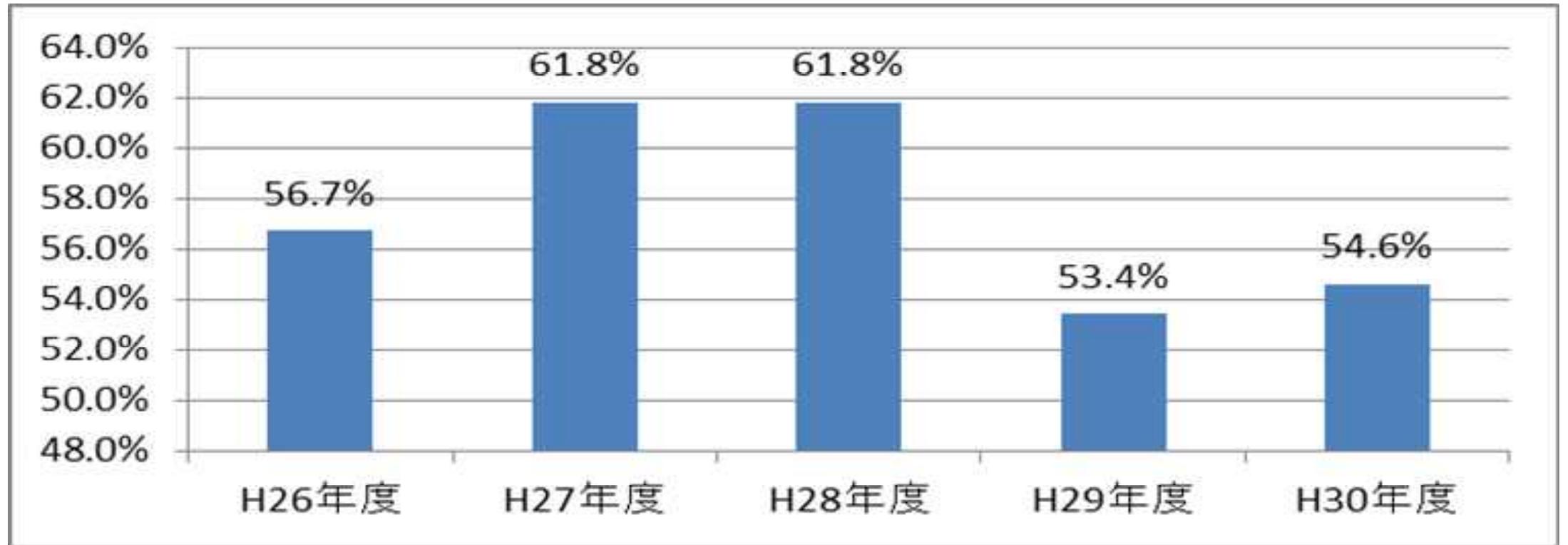
中野区では、甚大な建物被害や人的被害が想定されているが、特に、建物の焼失被害が、東京都全域や隣接新宿区と比較しても大きい。

		中野区内	新宿区内	東京都全域
面積(km ²)		15.6	18.2	1777.6
昼間人口(万)		28.5	77.0	1495.0
建物棟数	木造(棟)	51,464	36,731	2,011,459
	非木造(棟)	20,821	29,507	814,962
建物被害	全壊建物(棟)	2,241	3,683	116,224
	出火件数(件)	24	37	811
	焼失建物(棟)	7,222	2,179	201,249
	焼失率(%)	10.7	3.9	7.3
人的被害	死者(人)	214	293	9,641
	重症(人)	356	887	21,893
	中等・軽症(人)	2,059	5,905	125,718
	避難者(人)	76,807	76,805	3,385,489
	帰宅困難者(人)	58,123	313,811	4,714,314

東京都地域防災計画 震災編(平成26年修正版)【別冊資料】
 想定=東京湾北部地震(M7.3)冬18時・風速8m/s より

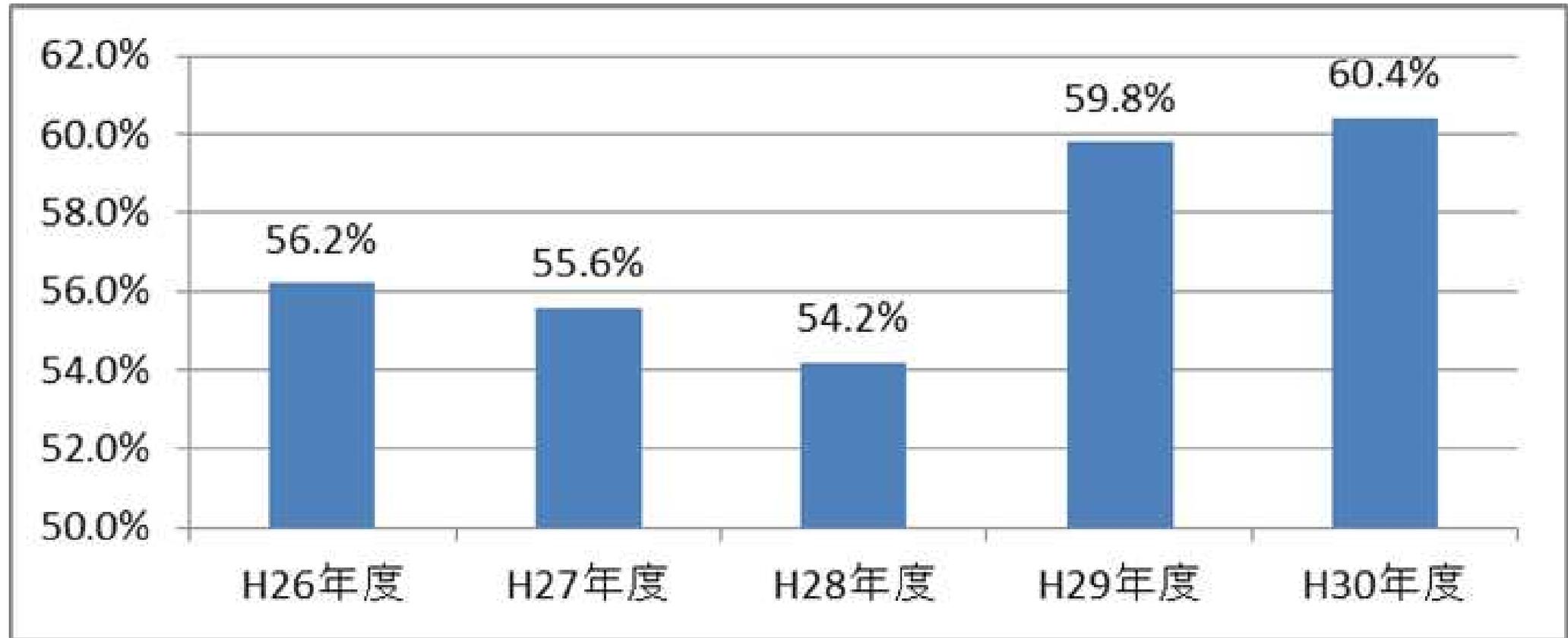
災害時の安全性について、良い・どちらかといえば良いと回答した区民の割合

災害時の安全性について、良い・どちらかといえば良いと回答した区民の割合は、平成29年度、低下した。



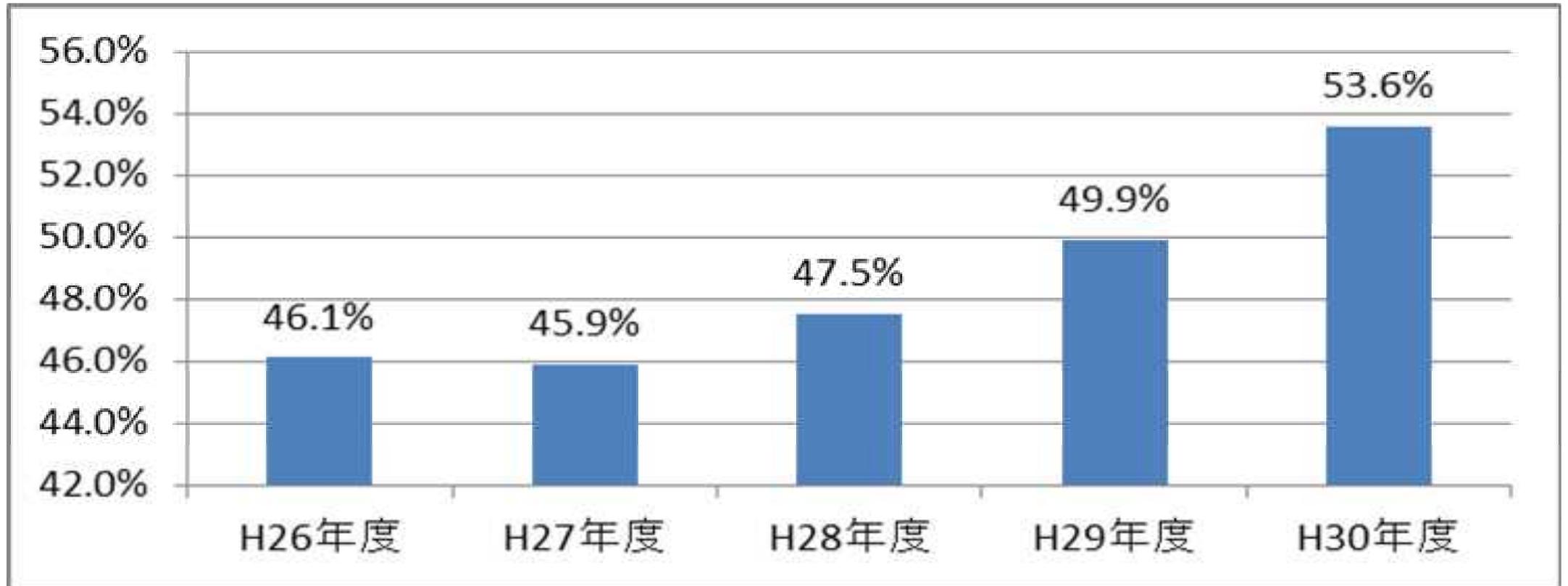
飲料水を備蓄している区民の割合

飲料水を備蓄している区民の割合は増加傾向となっているが、依然4割近くの区民は飲料水を備蓄していない。



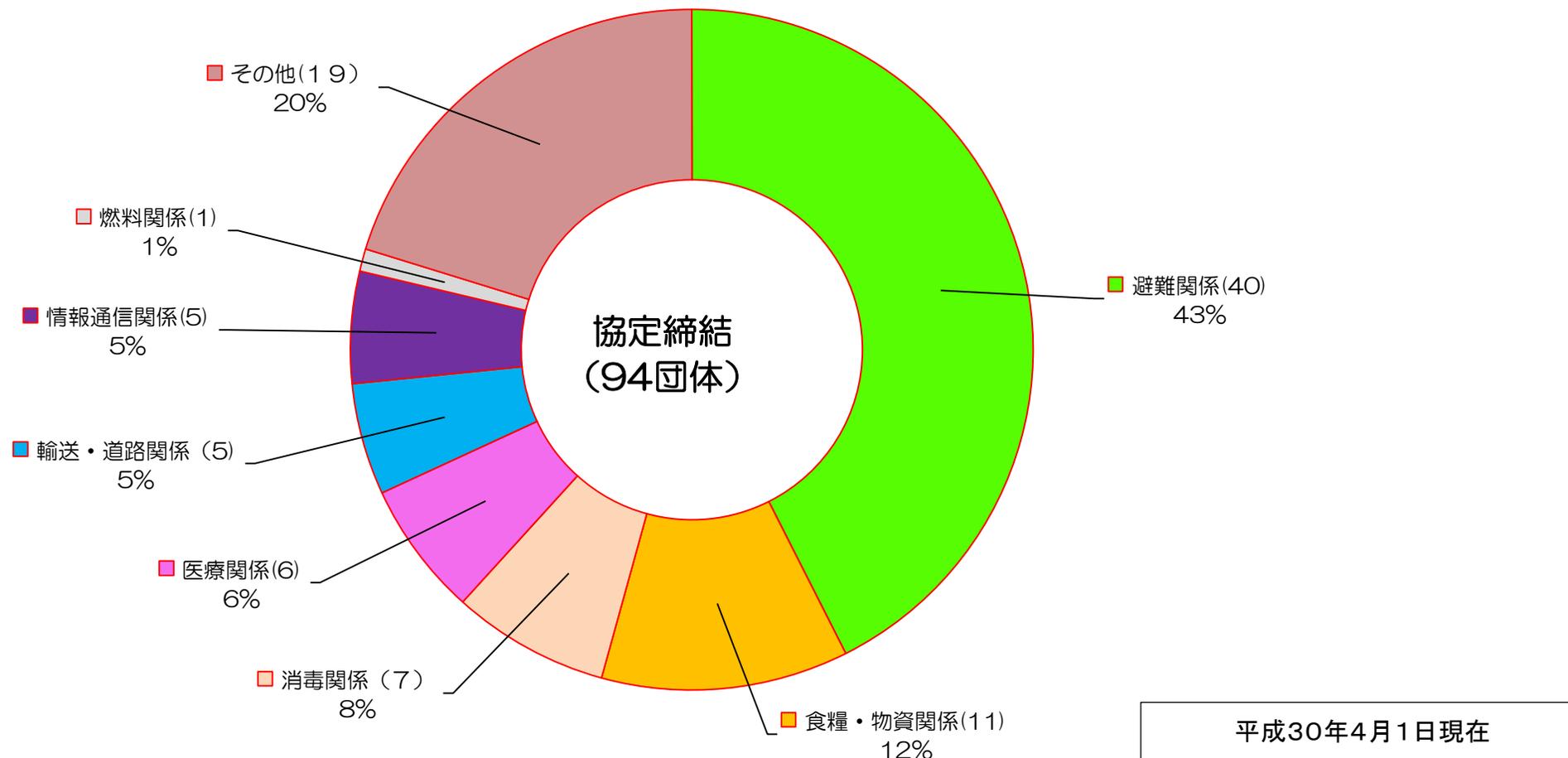
食料を備蓄している区民の割合

食糧を備蓄している区民の割合は増加傾向となっているが、約5割の区民は食糧を備蓄していない。



中野区と他団体との協定状況

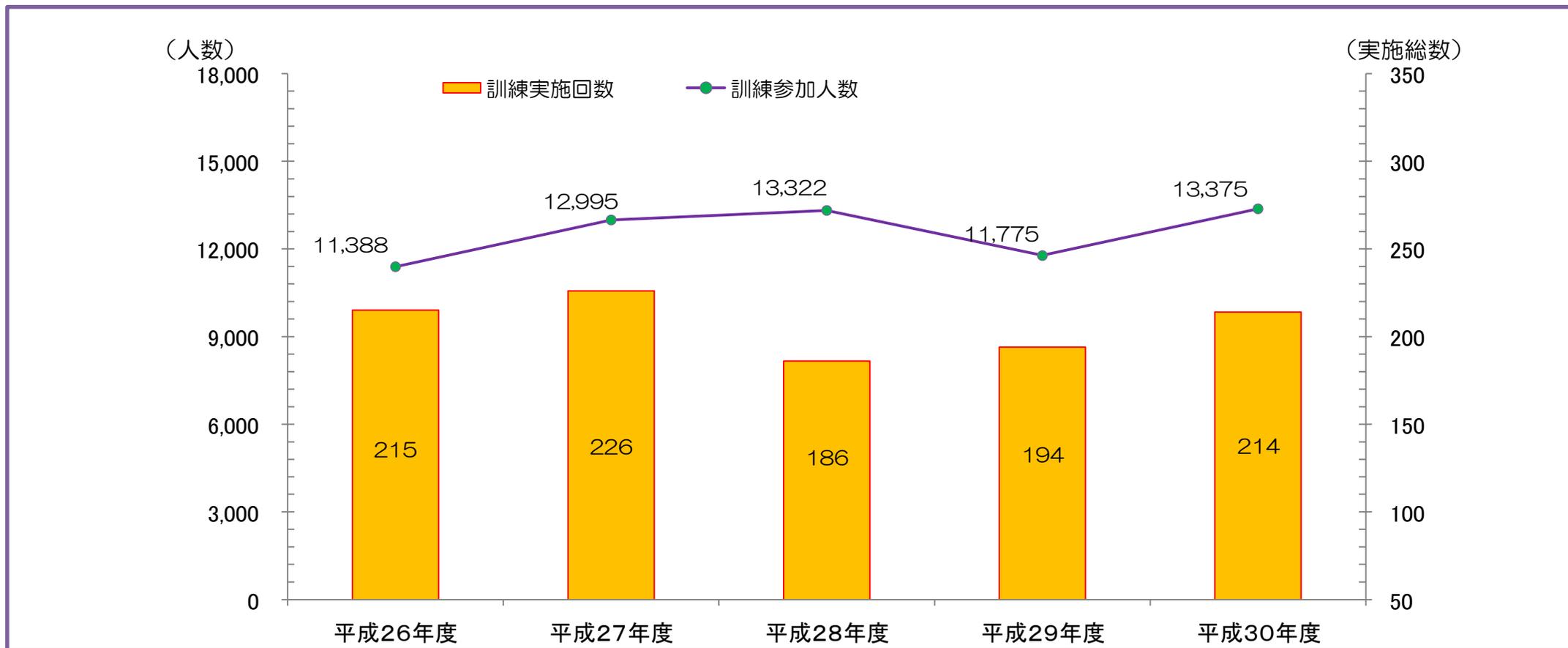
事業所との連携など防災体制の充実・強化を目的に、94の団体と連携協力に関する協定を締結、避難所設備の利用や物資及び資機材の提供などの充実を図っている。



中野区地域防災計画(平成30年修正版)【別冊資料】より

地域防災会の自主訓練の実施状況と参加人数

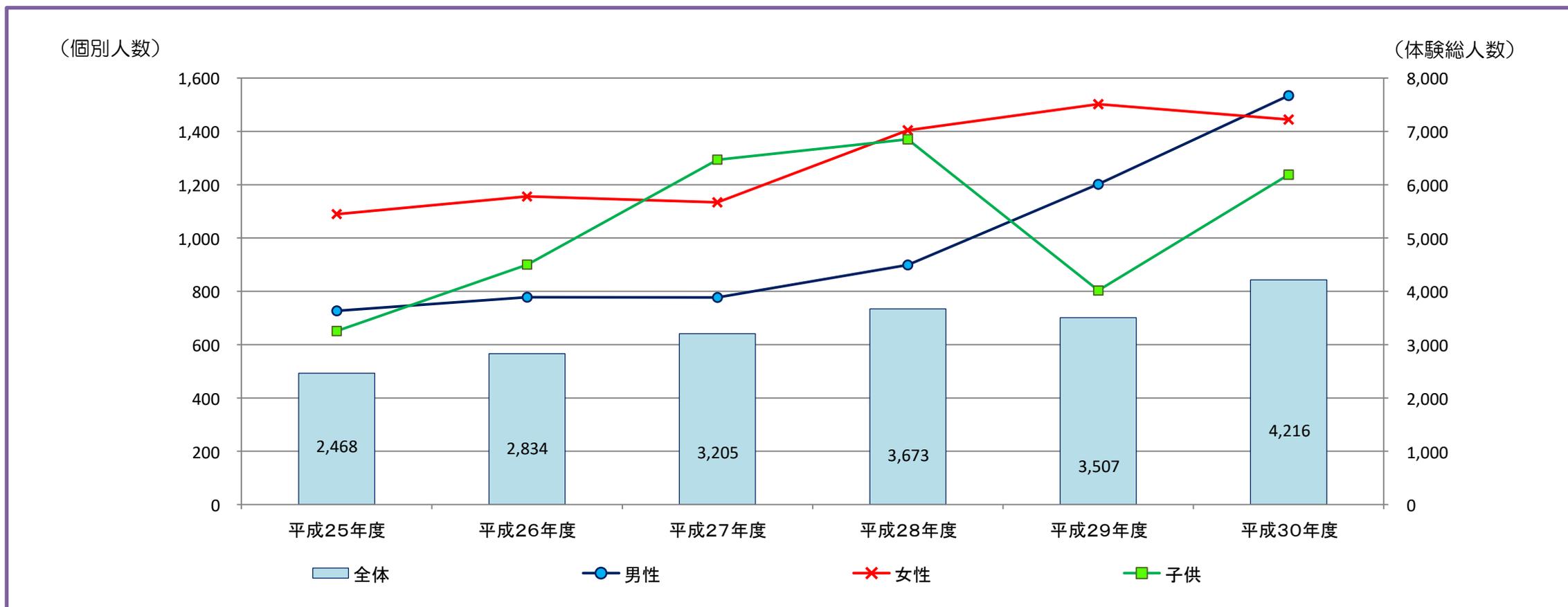
防災行動力を高めるため各地域防災会は、自主訓練を推進しているが、訓練実施回数、訓練参加人数ともに横ばいを推移しており、一層の実施促進が必要である。



中野区地域防災計画(平成30年修正版)【別冊資料】より

防災体験デーの体験者数の推移

防災意識の高揚を目的に、防災体験デーを開催しており、年々、体験者数は増加をしているものの、平成28年度から女性の体験者数は横ばいに、子供の体験者数は変動が大きくなっている。

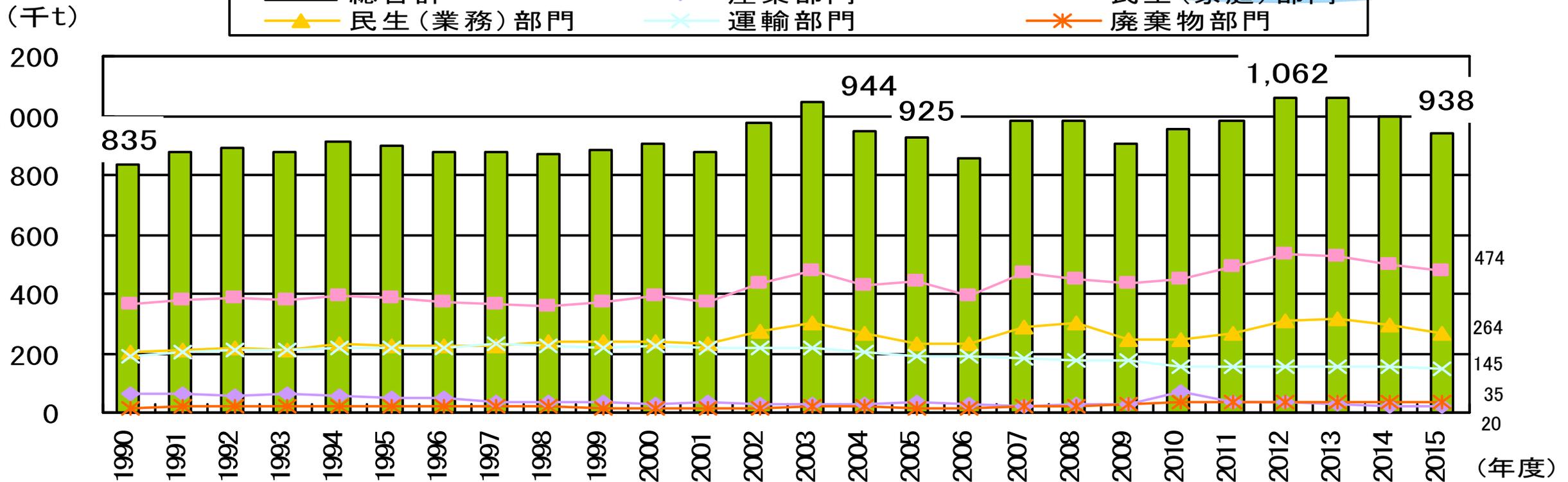


中野区地域防災計画(平成30年修正版)【別冊資料】より

地球にやさしいライフスタイル

中野区の部門別CO₂排出量の推移 (1990年度～2015年度)

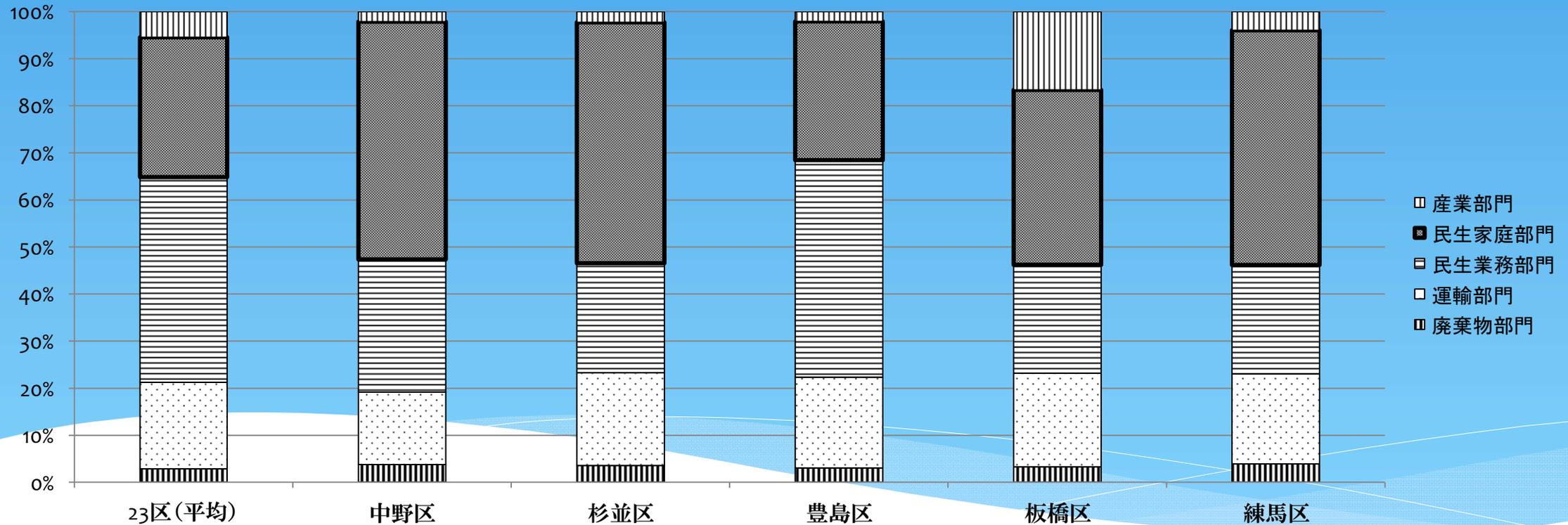
第3次中野区環境基本計画において、2025年度のCO₂排出量を901千トンとする目標を立てている。目標達成に向け、CO₂削減施策を継続・推進していく必要がある。



(公財)特別区協議会
「特別区の温室効果ガス排出量(1990年度～2015年度)」より作成

2015年度CO₂排出量割合の比較 (第4ブロック)

中野区は、民生家庭部門の構成比が23区の中では高いため、民生家庭部門を中心に、CO₂削減施策を展開する必要がある。



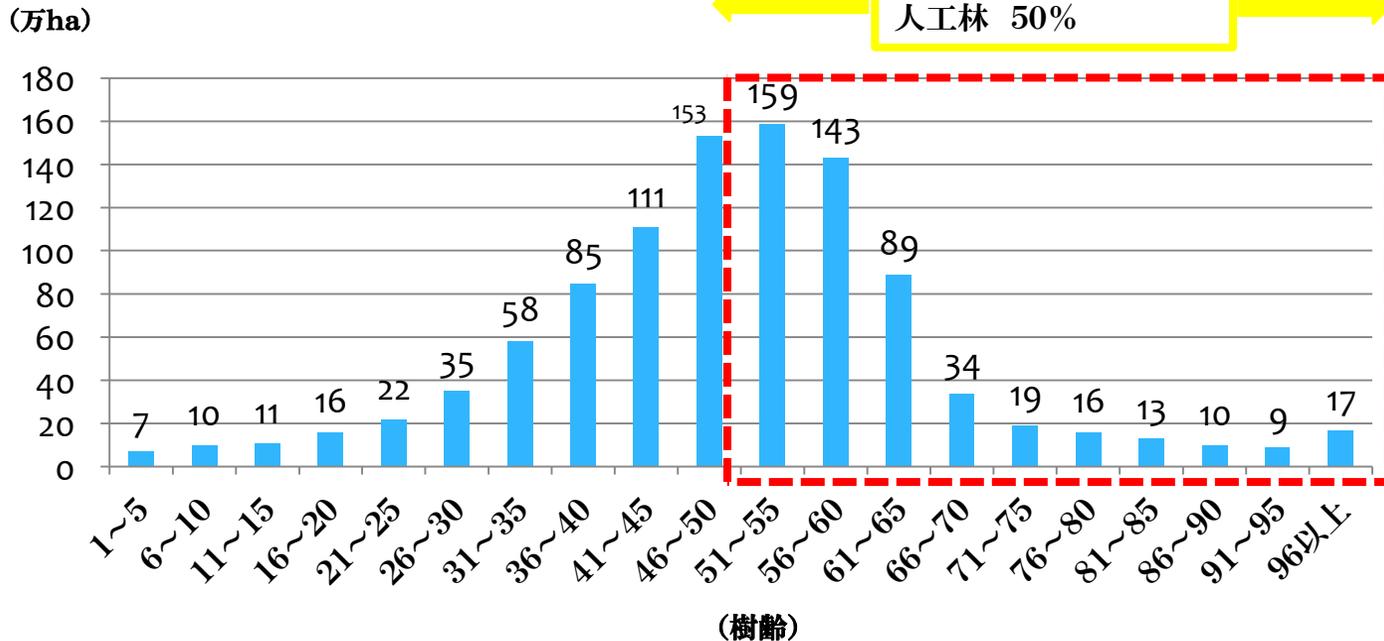
(公財)特別区協議会
「特別区の温室効果ガス排出量(1990年度～2015年度)」より作成

木材利用によるCO₂の吸収

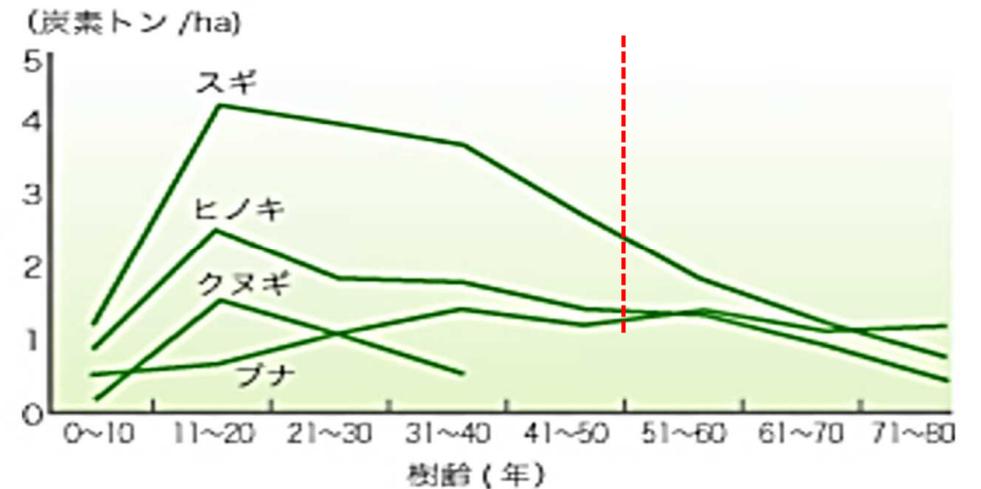
国内における人工林の半数が一般的な主伐期である50年生を超えており、資源を有効活用すると同時に、循環利用に向けて計画的に再造成することが必要である。森林を保有していない都市部である中野区では、国産材の積極的な利用により、森林保有地域の森林整備を支援することになる。（適正な森林整備は、森林によるCO₂吸収の増加につながる。）



○人工林の樹齢別面積



○樹種・林齢別炭素吸収量

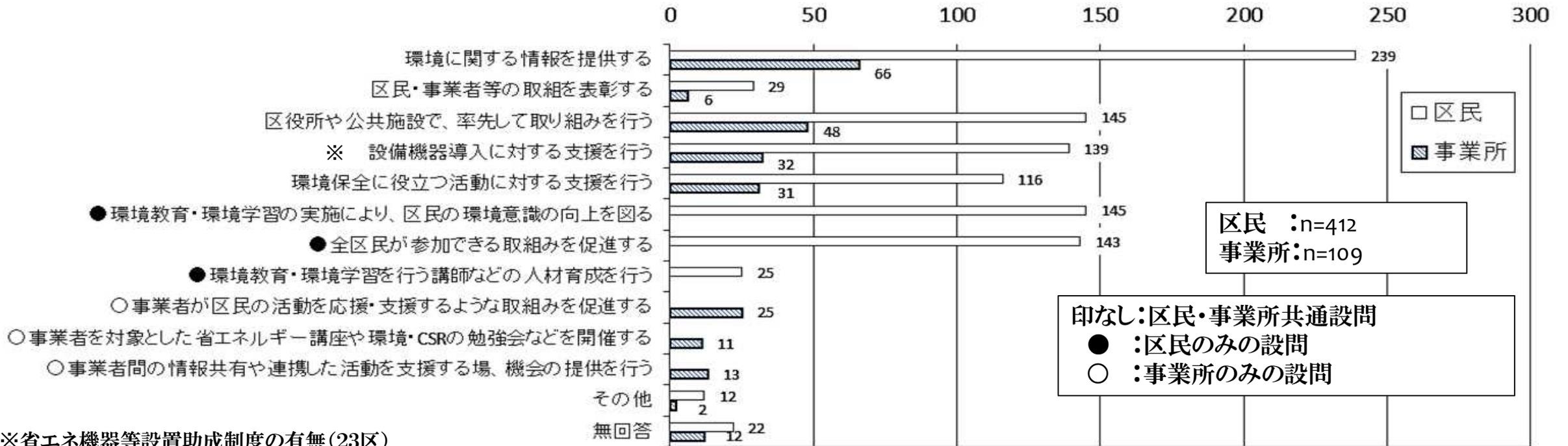


※森林法第5条及び第7条の2に基づく森林計画の対象となる森林の面積。

林野庁「森林資源の現況」(平成29年3月31日現在)及び
関東森林管理局HPより作成

中野区環境施策への要望

区民および事業者ともに、情報提供・区の率先した取組・設備機器導入や環境保全活動への支援について、要望が高い。



※省エネ機器等設置助成制度の有無(23区)

助成制度実施区 ・太陽光発電システム 19区

・太陽熱ソーラーシステム、温水器 12区

・エコキュート 7区

・エネファーム 17区

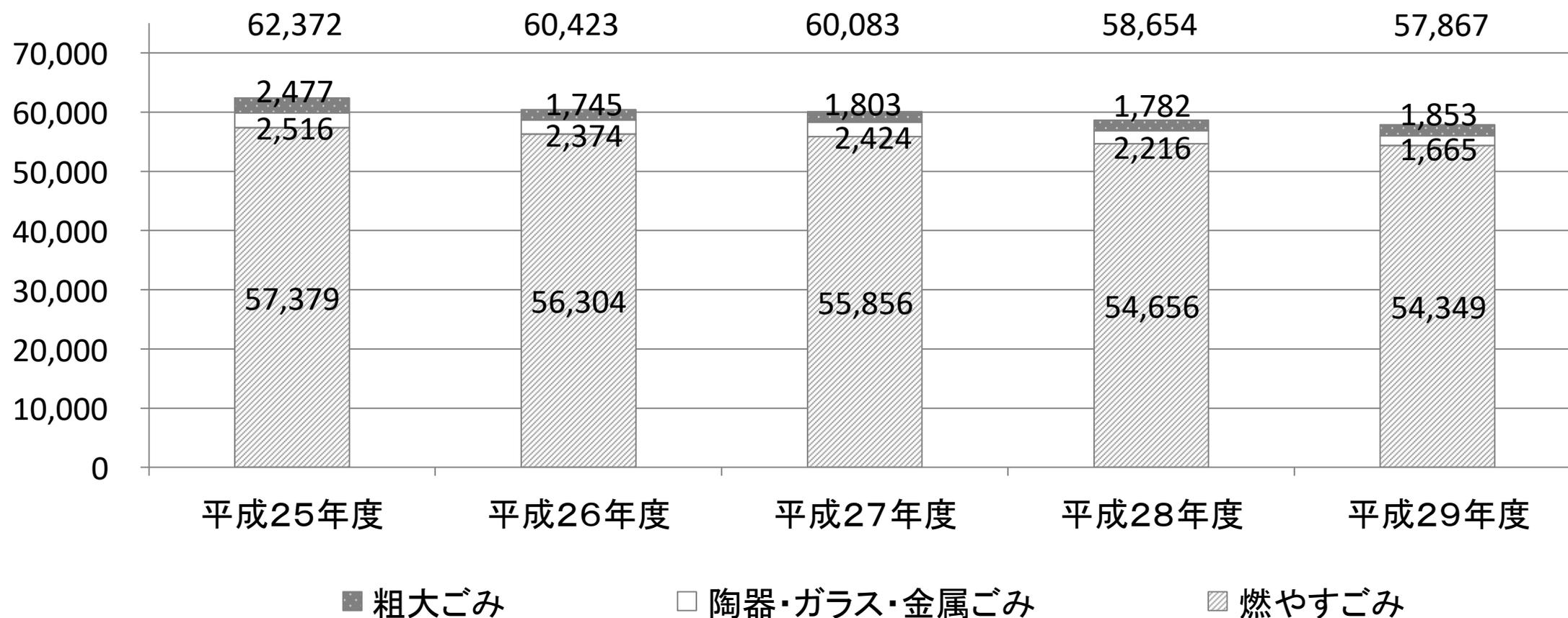
中野区は、いずれの機器についても未実施である。

「環境」に関する区民・事業所アンケート
(平成26年度中野区実施)及び
各区のHPより作成

中野区のごみ量の推移

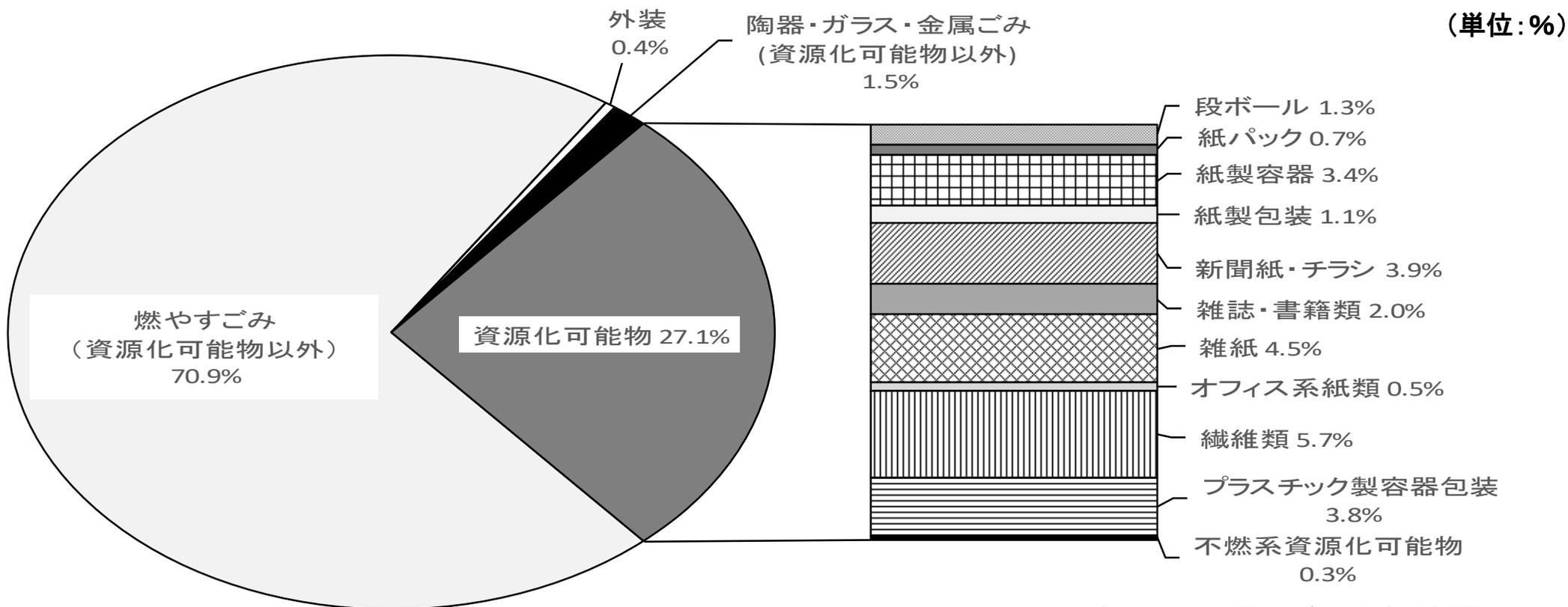
毎年度ごみ量は減少傾向にあるが、その減少率は鈍化している。

(単位:トン/年度別)



燃やすごみに混入している、資源化可能物及び対象外品目の割合

燃やすごみの中には、紙類など資源として回収できる物がまだ多く含まれている。



<平成30年度中野区ごみ組成分析調査>

近隣区のごみ収集・資源回収実施状況（平成31年度）

区名	ごみ収集									
	可燃ごみ			不燃ごみ				粗大ごみ		
	週回回数	直営	車付 雇上	週回回数	直営	車付 雇上	資源化	受付	収集	
									直営	委託
中野	週2回	○		月2回		○	○	委託		○
杉並	週2回	○	○	月2回	○		○	委託		○
練馬	週2回	○	公社	月2回	○	公社	×	委託		○
豊島	週2回	○	○	月2回		○	○	委託		○
板橋	週3回	○	○	月2回		○	○	委託		○

区名	資源回収										
	びん・缶・ペットボトル	プラスチック製容器包装			古紙			古布		小型家電	
		週回回数	直営	委託	週回回数	行政 回収	集団 回収	週回回数	行政 回収		集団 回収
中野	週1回		○	週1回		○	週1回		○	9品目	
杉並	週1回		○	週1回	○		—			15品目	
練馬	週1回		公社	週1回	○		—			9品目	
豊島	週1回	—		週1回	○		週1回	○		28品目	
板橋	週1回	—		週1回	○		—			28品目	

※「古紙」及び「古布」については、主として実施している方に「○」を付けている。

中野区基本構想ワークショップ 成果物（意見まとめ）

（令和元年6月2日・8日開催）

（抜粋）

都市・環境・防災

都市計画・まちづくり

若い世代を呼び込むまちづくりを目指す意見が多く、また、区民と行政間のコミュニケーション、地域のネットワークの活性化、外国人をはじめとした多様なまちを望む声も多く挙がりました。

- ・若者に魅力的なまち中野
- ・区民～区民、区民～行政のコミュニケーション
- ・区～区民の情報共有が密にできている
- ・地域ネットワークの強化
- ・外国人や地域住民とのコミュニティ

人口動態・子育て世帯

特に子育て世帯を増やす方向性を望む意見が多く見られました。

- ・子育て世帯誘致
- ・子育て世帯が住みやすい中野

商店

個人商店の閉店への危機感が多く挙がりました。

- ・個人商店も大切に元気なまちへ

大切にしたいこと

空き家・住居

特に空き家への関心・危機感が強く現れていました。

- ・空き家の活用（2）
- ・空き家をキッズルーム・託児所に活用
- ・空き家の活用（古民家リサイクル）
- ・空き家・防犯対策のできた再開発をしている

ゴミ・環境

特にゴミ問題の改善を望む意見が多くあり、一方でCO2やエネルギーの関心も見られました。

- ・ゴミ排出に関する意識の継続
- ・ゴミの出し方を工夫してきれいなまちへ
- ・ゴミの出し方についての区の情報発信

公園・緑

公園の小ささや質への問題意識が多くあり、人が集う場・緑ある環境への期待が見られました。

- ・公共スペースの確保（公園・道路・緑）
- ・公園づくりを工夫してコミュニティの場所へ
- ・緑あふれる公園
- ・公園・川・西武跡地等の活用

道路・交通

道路の狭さへの問題意識が強くあり、安全を望む意見が多く見られました。また、中野駅周辺をはじめとした駅の混雑解消やバリアフリーについての声なども挙がっていました。

- ・道路の拡張や防災訓練の充実により安心安全に暮らせる
- ・狭い道路を改良して安心・安全、災害に強いまちへ
- ・歩行者の安全の確保

防災

災害に向けた対処や備えについて、かなり多くの意見が挙がっていました。住宅密集、木造住宅、避難所、防災訓練、要支援者への配慮などへの課題感が見られました。

- ・災害に強い街対策（2）
- ・木造密集地域の解消
- ・防災対策（備蓄・道路拡幅・炎症防止・避難所・トイレ）
- ・避難所の適切な配置

都市計画・まちづくり

- ・各駅周辺のまちづくりの進捗が遅い
- ・駅前以外の再開発計画がわかりにくい
- ・西武線でまちの機能が分断されている
- ・わざわざ来たいまちではない・魅力が少ない
- ・区のHP利用しづらい
- ・地域コミュニティの希薄化

人口動態・子育て世帯

- ・子育て世帯が少ない（3）
- ・子育て世帯が安心して遊べる場所がない
- ・単身者が多い、定住してもらえない
- ・中野区としてどんな人口構造・まちの姿でいたいのか？子育て先進区？

商店

- ・個人商店の閉店が目立つ、寂しい街になる（5）
- ・商店街の減少（2）
- ・電子マネーの使える店が少ない
- ・スーパーの近くにスーパーが、ドラッグストアの近くにドラッグストアができる

空き家・住居

- ・空き家が多く防災・防犯が不安（4）
- ・アパートの大家さんが近くに住んでいないので管理がずさん

ゴミ・環境

- ・ゴミの分別がわかりにくい（4）
- ・ゴミの出し方が悪い（2）
- ・ゴミの分別ができていないことでカラスの増加やご近所トラブルにつながる
- ・環境問題（CO2、ゴミ）は切実
- ・CO2排出量削減が止まっている
- ・家庭からのCO2排出、具体的に何か
- ・小中学校で環境教育の徹底、コンポストの実施

公園・緑

- ・公園が少ない（2）
- ・公園が狭くて暗い、憩いの場になっていない、気持ち悪い、活用がイマイチ、遊具の減少、汚い
- ・平和の森公園の300本の木が伐採された
- ・自然や畑に触れられる場所がほしい
- ・外が暑くなってきて室外遊びが不安

道路・交通

- ・狭い道が多くて危なく感じる（7）
- ・狭い道を救急車や消防車が通りにくい（3）
- ・バス通りと商店街が一体化していて危険
- ・歩道が無いのに交通量が多い道路
- ・都市計画道路の事業実施が遅い、つぎはぎだらけ
- ・歩道でのタバコ
- ・南北方向の交通網
- ・開かずの踏切が多い（2）
- ・中野駅周辺が使いづらい（2）
- ・駅のバリアフリー化（2）
- ・中野駅、遅延した際には入れない
- ・ホームドア設置を進める

防災

- ・避難場所がわかりづらい・案内が不足している・遠い（6）
- ・避難場所が狭く収容しきれない、区の人口に追いついていない（2）
- ・災害リスクの高さに対策必要（3）
- ・地震時の火災の危険性が高い（2）
- ・川の氾濫リスク（3）
- ・住民の防災意識が低い（2）
- ・地域の危険度は具体的に何？
- ・災害時の電源確保
- ・近隣に高齢者が増えていざと言う時に手伝えないのでは
- ・単身世帯が災害の時に不安（2）
- ・外国人・障害者・ペットなどの避難（2）
- ・防災訓練の参加者が少ない（2）
- ・木造住宅が多く心配（5）
- ・耐震補強の補助がない（2）
- ・備蓄している人が少ない
- ・備蓄についても学びが必要

都市・環境・防災

ありたい姿・理想

都市計画・まちづくり

- ・若い人・学生がくる活気あるまちづくり（3）
- ・子どもたちが安心して学べ、遊べるまち（2）
- ・いつでも意見を伝えられたり必要な情報をスムーズに得られるまち
- ・新しい時代の文化・流れを積極的に受け入れている
- ・アナログ・デジタルの共存
- ・区民～行政のコミュニケーションが取れるまち
- ・外国人と仲良く住めるまち（2）
- ・外国人に日本の文化・ルールを知ってもらう
- ・外国人への案内掲示増
- ・安心安全・つながり・子育てのための町会加入
- ・地域活動に家族ぐるみで参加

人口動態・子育て世帯

- ・子育て世代の定住（2）
- ・保育所を増やす（2）
- ・子どもが多く住んでいるまち
- ・親が安心して子供を預けて働ける環境づくり
- ・子ども手当・健康医療の充実
- ・保育を経験した人たちの活用
- ・世帯者アパートを増やす
- ・室内のキッズスペースを増やす
- ・社宅の誘致

商店

- ・個性的な専門店が増えている
- ・個人商店を保護
- ・商店街が元気なまち
- ・若い人が起業しやすくなっている
- ・ラーメンのまち野方
- ・地域と企業の交流
- ・シェアショップ

空き家・住居

- ・空き家の活用（4）
- ・空き家対策に向けた法改正（2）
- ・区が空き家を統一管理し活用（2）
- ・住宅密集地に防犯カメラを設置

ゴミ・環境

- ・ゴミの分別・出し方をわかりやすく情報発信（2）
- ・美しい・清潔なまち（2）
- ・ゴミ分別キッチンとしたら何かメリット（2）
- ・ゴミの量が減る
- ・ゴミの分別は現状維持してほしい
- ・街中にゴミ箱を設置
- ・環境団体への支援
- ・再生エネルギーへの補助

公園・緑

- ・子どもが遊べる広い公園（2）
- ・学校跡地を公園として活用（2）
- ・公園の増加（2）
- ・安心して集える、衛生的で緑の多い公園（2）
- ・キレイでオシャレな公園
- ・緑にあふれたまち
- ・高齢者が増えている時代なので街中に休憩する場所（ベンチを設置するなど）
- ・公園の機能向上になるベンチや花壇
- ・花壇サポーターのボランティアの仕組みづくり
- ・西武線地下化跡地を緑道に

道路・交通

- ・広く安全な歩道（6）
- ・歩行者と自転車・自動車がぶつからない（2）
- ・街全体がバリアフリーに（2）
- ・機能が整理され安全に利用できるまち
- ・安心して走れるトラック
- ・ランニング施設・シャワー
- ・中野駅前の混雑解消（2）
- ・駅ビルが併設された広い駅
- ・ミニバスの導入
- ・西武線の地下化
- ・電柱の地下化

防災

- ・住宅・木造家屋の密集地域の解消（3）
- ・空き家対策や道路の拡幅など防災のためのまちづくりができています（2）
- ・狭い道路が少なくなり、災害に強いまちへ
- ・災害が起きにくいまち
- ・安全・安心が確保できるまち
- ・河川工事・対策
- ・延焼防止のための植樹
- ・各個人の家の中もスッキリ
- ・避難施設・設備の充実（4）
- ・災害時に単身者が孤立せずに必要な支援を受けられる
- ・災害時に自宅で生活できるよう備蓄強化（2）
- ・町会ごとの備蓄ができています
- ・給水システムの完備
- ・地震に対する危険度を住民に説明するなどリスクを低減する
- ・防災イベントを多く行い、グッズなども販売
- ・定期的に防災訓練
- ・防災情報網の充実（2）
- ・災害時に高齢者・障害者を支えられるようなつながり
- ・近所の人同士が助け合える人づきあい（3）
- ・町会より小さい単位で協力が必要
- ・学校ごとの連絡網の復活

都市・防災・環境部会 審議状況

中野区基本構想審議会 第2回配布資料(令和元年7月29日開催)

<快適で魅力ある住環境>

多様な人と人のつながり (まちのあり方)

発言内容

- ① ワンルームマンションに住む若年層や外国人は、町会などのコミュニティに属さない人が多いので、地域とつながる支援があると良い。
- ② 相続などで住宅が細分化されることで、単身者用の住宅が増え、高齢者の孤独死も増加しているので、地域の見守りなどの支援が必要である。
- ③ 地方から東京にきて初めて住むまちが中野という人も多い。外国人にも日本に来て初めて住むまちが中野というイメージ戦略も良い。
- ④ 若い世代が結婚し、子育て世帯になってもずっと住み続けたいと思えるまちづくりをすると良い。
- ④ 若い世代を呼び込むまちづくりをするといい。
- ④ 子育て世帯を増やすまちづくりをするといい。

答申のイメージ

- ① 単身世帯の若年層や外国人が、地域コミュニティに参加している。
- ② 一人暮らしの高齢者が、地域で孤立せずに暮らしている。
- ③ 国籍や文化の違いのある人が地域に溶け込んで、来日した外国人が生き生きと新生活を始めている。
- ④ 結婚し、子どもを持って、ずっと住み続けたいと思えるまちとなっている。

区民と行政の協働

発言内容

- ① 中野区は公園が少ないので、空家を取り壊してポケットパークにするなど、地域の人が集まって顔を合わせられる場に活用できると良い。
- ① 空家を空地にするといろいろと活用できるが、地域で相談して対応していくことも考えられる。
- ① 地域のために貸し出してもいいという空家について、若い世代に安く貸し出すなど、有効に活用してほしい。
- ① 空家をキッズルームや古民家にするなど活用できるといい。
- ② 地区計画によって、事業所などすでに立っている建物が建て替えできない問題がある。区民との協働によって都市計画を見直していけるといい。
- ③ 道路や公園などの公共基盤が、区民が参加して管理して運営できているといい。
- ④ 区民と行政の間の情報共有が密にできているといい。
- ④ 区だけでなく、住民も一緒にまちづくりに参加している。

答申のイメージ

- ① 地域のコミュニティの場として、空家や空き地が有効活用されている
- ② にぎわいのある土地利用を実現するために、区民が身近な地区のまちづくりに積極的に参加している。
- ③ 道路や公園などの公共基盤が、地域や民間団体が管理に協力して適切に管理されている。
- ④ 行政が情報を発信し、区民と情報共有しながら一緒にまちづくりをしている。

発言内容

新しい行動と価値の創出

- ① フィルムコミッションなど、新しい活動ができる空間があると良い。
 - ② 区の予算にも限りがあるので、実証実験などの手法を取り入れるのも良い。
 - ③ 区民がまちづくりに参加できる仕組みがあると良い。
- (例えば、中野通りの桜を誕生日などに植樹できるなど、町会などの団体としての参加だけでなく個人単体でもアクションが起こせるような仕組み)

答申のイメージ

- ① 中野の景観や空間を活用し、新たな行動が生まれている。
- ② 実証実験などの新しい手法を取り入れ、まちづくりを進めている。
- ③ 一人でも、気軽に、まちづくりに参加できる場や環境が整っている。

発言内容

行政がすべきこと

- ① 中野区は道路が狭く、セットバックしても電柱が残ってしまっていて歩道が狭いまなので、電線の地中化が必要である。
- ① 快適で魅力ある住環境として、安心安全に歩ける歩行者空間が必要である。
- ① 中野区は道路が狭いので、安全に歩ける道路が必要である。
- ② 中野区は公園が少ない。子育て世帯に定住を促すには公園の拡充が必要である。
- ② 遊具のある公園もいいが、なにもない広場だけの公園もあると良い。
- ② 公園が地域の人の交流の場になるといい。
- ② 緑あふれる公園にしてほしい
- ③ 住みたい、住み続けたいまちとしては、交通機関へのアクセスなど、移動の充実が必要である。
- ③ 南北の交通の便が良くなるといい。
- ④ 開発により変化していくことばかりではなく今の中野らしさを守っていくことも大切である。

答申のイメージ

- ① 無電柱化が進み、安心・安全な歩行者空間が確保されている。
- ② 公園がそれぞれの個性を持ち、様々な形で利用され、いつも子どもや親子でにぎわい、地域の魅力となっている。
- ③ 誰もが、気軽に移動することができる交通ネットワークが形成されている。
- ④ 変わるものと変わらないものが共存し、中野らしさが形作られている。

<世界に開かれた都市活動とにぎわいの拠点>

多様な人と人のつながり (まちのあり方)

発言内容

- ① 中野の駅前には多くの飲食店があり、外国人の来訪者も増えている。選択肢がたくさんあるというイメージを大事にする必要がある。
- ① 中野にはサブカルだけでなく伝統文化もある。一つに絞られない、可能性が高いまちとしてのイメージを大切にすることがある。

答申のイメージ

- ① 世界中の人が訪れ、サブカルチャー、飲食街、伝統文化など、中野ならではの多彩な魅力を楽しんでいる。

区民と行政の協働

発言内容

- ① 中野には、様々な価値観を受け入れる懐の広さがある。(ex.まんだらけ)ほっとするか、楽しいことがあるとか、今あるまちのイメージを大事にする必要がある。

答申のイメージ

- ① 多様な文化や価値観が集まることで、まちの活気となっている。

発言内容

新しい行動と価値の創出

- ① 四季の都市には、麒麟などの世界的なメーカーがあり、明治大学や帝京平成大学には国際的な学部がある。つなげるネットワークが必要である。
- ① 中野で芸能・芸術活動をしている人がたくさんいるが、ネットワークがうまくいっていない。一体となって世界に発信していけるつながりが必要である。
- ② 新しいサンブラザも、小さな演劇などもできるような、一緒に育っていける場としての活用がされると良い。

答申のイメージ

- ① 企業や大学、芸能・芸術活動等の多様な主体がつながることで、新しい魅力が創出され、世界に発信されている。
- ② 最先端の文化活動や商業活動と、区民の身近な文化活動が共存している。

発言内容

行政がすべきこと

- ① 中野では近年、病院などの拠点の大幅増など強みがたくさんあるが、他の地域に知られていないので、多様なツールを使った広報の強化が必要である。
- ① 駅前の再開発により中野の魅力が向上し、知名度がアップして人口が増えるといい。
- ② 中野駅の混雑を解消し、バリアフリー化をすすめてほしい。

答申のイメージ

- ① 中野の魅力や出来事が広く発信され、区外の人々に伝わっている。
- ② 中野駅では西口の新設等により、あらゆる人が快適に行き来している。

<地域のにぎわいの創出・再生>

多様な人と人のつながり (まちのあり方)

発言内容

- ① 今、地縁や地場のつながりを求められているので、地域で人がつながれる仕組みが必要である。
- ② 区民活動センターの空きスペースなどを利用して、町会でコーヒーサロンを開いたり集まれる場所を提供している。行政に頼るだけでなく、地域住民としても賑わいの創出のためにできることを考えないといけない。

答申のイメージ

- ① いつでも誰でも、新たに地域コミュニティに参加することができる。
- ② 区民の主体的な活動で、地域のにぎわい空間が生まれている。

区民と行政の協働

発言内容

- ① 地域の益踊りなど、地域で継続していることを区と一緒にできると良い。
- ② 坂が多い地域などがある。高齢者の近くに、すぐ買い物に行ける商店街や商店が必要である。
- ③ 商店はものを売るだけでなく、そこで話をするとか、子どもが買い物を通して、最初に社会に触れる体験ができる場でもある。商店街の活性化が必要である。
- ④ 空き家を活用しプレイパークなどを作って、高齢者も子どもも集まれるにぎわいの場にできると良い。
- ④ 空き店舗は、ギャラリーや雨宿りできる場所など、地域に合った活用のされ方をすると良い。
- ⑤ 西武新宿線が地下化されたあとの上部活用として、カフェや飲食店もある遊歩道の様なにぎわいの場になるといい。

答申のイメージ

- ① 区は、区民と一体となって地域のにぎわいを生み出している。
- ② 歩いて買い物に行ける身近な商店街。
- ③ 区民の交流と、子どもの社会体験の場としての商店街。
- ④ 地域のにぎわいの場所として、空家や空店舗が有効活用されている。
- ⑤ 地域の特性を活かし、地域の意見等を聞きながら、西武新宿線の連続立体交差事業に伴ってできたスペースの有効活用の検討が進んでいる。

発言内容

新しい行動と価値の創出

- ① 住むところ、働くところ以外の場として、賑わいと繋がりサードプレイスの魅力を創出できるといい。
- ② 鉄道整備に合わせて、西武新宿線の各駅ごとにエリアマネジメントがなされるといい。

答申のイメージ

- ① 職住のみならず、賑わいとつながりの場が生まれている。
- ② 西武新宿線沿線では、鉄道整備にあわせ地域の特性に合わせたまちづくりが進められている。

発言内容

行政がすべきこと

- ① 道路が狭くて資材を搬入できず建て替えられない地域もあるので、狭隘道路の拡幅が必要である。
- ② 西武新宿線沿線では、バス通りにもかかわらず、道が狭く、朝など踏切が開かず、不便さを感じている住民が多いので、解決する必要がある。
- ② 線路があると、地域が遮断されてしまうので、地下化の推進が必要である。
- ③ 中野区は縦に長く、同じ中野区に住んでいたとしても地域によって特徴が違うので、それぞれの地域に合ったまちづくりが必要である。
- ③ 地域で活動している団体は、地域の特性もよく知っているのでよく話を聞く必要がある。
- ④ 東中野駅、中野坂上駅、新中野駅などにぎわいが生まれ、まちの活性化が進むといい。

答申のイメージ

- ① 区内の道路ネットワークが構築され、交通の円滑性が向上している。
- ② 西武新宿線沿線では、西武新宿線の連続立体交差事業や交差する都市計画道路の整備が進み、交通の利便性が向上している。
- ③ 地域の特徴や歴史、人のつながりが、まちづくりに生かされている。
- ④ 東中野駅、中野坂上駅、新中野駅などではにぎわいのあるまちづくりが進んでいる。

<災害に強い都市>

多様な人と人のつながり (まちのあり方)

発言内容

- ① 災害時には地域のつながりが重要なので、コミュニティの強化に力を入れる必要がある。
- ② 有事の際、区民が発電機や防災資機材を活用して、自分たちで避難所運営できるよう地域の防災力を強化する必要がある。
- ③ 昨今、在宅避難が呼びかけられている。在宅避難者のケア対策を考える必要がある。
- ③ コミュニティが弱い地域での、被災時のネットワークづくりを考える必要がある。

答申のイメージ

- ① 区民が日常から地域の繋がりをもち、災害時にも互いに支えあっている。
- ② 災害時には、地域の住民が協力して防災拠点の運営やネットワークを構築している。
- ③ 被災時であっても、避難所にいる人も在宅避難中の人も、中野にいるすべての区民がネットワークでつながり相互に助け合う体制が整っている。

区民と行政の協働

発言内容

- ① 風間人口が増加し、町会中心の防災情報発信では網羅できなくなってきた。集合住宅が増え町会未加入者も多いので、情報伝達の強化が必要である。
- ① 町会未加入者が増え、風間人口も増加しているため、デジタルサイネージの活用など、情報伝達の強化が必要。
- ② 災害が起きたとき、食糧の確保や避難所運営も全て行政がやってくれると思えば災害にまったく備えていない人がまだいる。防災に対する現実的な情報提供を強化する必要がある。
- ② 災害に備えて、飲み水の備蓄など防災に対する備えをするようもっと区民に広報する必要がある。
- ③ 災害時、区が協定団体との連携がきちんととれるよう事前に体制を整えておくことが必要である。
- ④ 同じ区内でも地域特性が違うので、防災対策についても地域ごとに考える必要がある。
- ⑤ 避難時や避難所などでの要支援者に配慮のある防災対策が必要である。
- ⑥ 旧耐震基準の古い建物が多い。耐震診断の助成活用PRが必要である。
- ⑦ 避難所によって機材などの配備に差があるので整備を進めてほしいし、また、地域で防災に携わる人の育成も継続的に行っていくて欲しい。

答申のイメージ

- ① 災害発生時、中野区にいるすべての人が正確に必要な情報を受け取れている。
- ② 一人一人が防災に対する正しい認識を持ち、自発的に防災に対する備えを行っている。
- ③ 災害発生時、様々な団体と区が連携し適切な支援が行われている。
- ④ 地域の特性を把握し、地域ごとにきめ細かい防災対策が構築されている。
- ⑤ 災害が発生しても、要支援者が安心して安全に避難できる体制が構築されている。
- ⑥ 区民が住まいへの耐震対策をおこなっている。
- ⑦ 地域の防災を支える人材の育成が行われている。

発言内容

新しい行動と価値の創出

答申のイメージ

発言内容

行政がすべきこと

- ① 防災公園を増やしてほしい。
- ① 区の再開発でビルやマンションが増えるので、避難できる公園を増やしてほしい。
- ② 水害対策の促進、治水対策の強化が必要である。
- ③ 被災時のブラックアウトが懸念されている。電力の自立性とライフラインの確保が不可欠である。
- ③ ライフラインが震災時でも、途絶えない対策が必要である。
- ③ 地域危険度が高い地域には消防署の設置も検討してほしい。
- ④ 気候変動による熱中症への対策が必要である。
- ⑤ 防災のために木造住宅密集地域の道路拡幅などを今以上に進めてほしい。
- ⑥ 災害時、区が迅速に正確な情報を収集し、区民がその情報を受け取れるようにしてほしい。
- ⑦ 土地の高度利用などによって生じた空間を有効活用し防災などの都市機能を向上させて欲しい。

答申のイメージ

- ① 公園の整備や防災機能が充実し、まち全体の安全性が高まっている。
- ② ゲリラ豪雨や台風などが発生しても、水害に強いまちになっている。
- ③ 被災時でも、ライフラインが途絶えないまちになっている。
- ④ 環境等の変化に応じて発生する新たな災害に対する対策が行われている。
- ⑤ 道路拡幅整備が進み、災害時の火災の延焼防止や緊急車両の通行確保などが行われている。
- ⑥ 災害時には、区が拠点となり迅速に情報を収集し発信できる準備ができている。
- ⑦ 土地の高度利用などによって生じた空間を有効活用し防災などの都市機能が向上している。

<地球にやさしいライフスタイル>

多様な人と人のつながり (まちのあり方)

発言内容

発言内容

新しい行動と価値の創出

- ① 環境コミュニティビジネスが展開できるといい。

答申のイメージ

答申のイメージ

- ① 地域コミュニティが主体となって、地域の環境問題の解決に取り組んでいる。

区民と行政の協働

発言内容

発言内容

行政がすべきこと

- ① 多摩地域などの杉材購入による森林保全活動やグリーン購入を行うなど、CO₂を排出しても削減する対策を活用して、全体としてのCO₂を削減できる取り組みをする必要がある。
- ② コンポストの購入助成をしてほしい。
- ② 区でフル電力自動車を導入してほしい。(災害時には電力供給もできる)
- ③ ごみを減らす区民一人一人への啓発強化が必要。
- ③ ごみ排出に関する意識啓発をしてほしい。
- ④ レンタサイクルの設置や区民による公園の花壇づくりや自家用車の抑制など、区民と行政が一体となってエコ活動を行ってほしい。
- ⑤ 建て替えによる緑化や区民によるみどりを育てる取り組みなど、環境保全への意識が暮らしの中に浸透するといいい。

- ① ソーラーシステムへの補助金の活用を強化してほしい。
- ② まちの景観的にも、ごみは戸別収集ではなく、集団回収にしてほしい。

答申のイメージ

答申のイメージ

- ① 行政も区民も、グリーン購入などを積極的に活用し低炭素社会が実現されている。
- ② 区民が環境負荷の少ない生活を送っている。
- ③ 持続可能な社会を意識し、区民が積極的にごみの減量を行っている。
- ④ 区と区民が一体となって、エコ活動を行っている。
- ⑤ みどりを育て増やす取り組みが促進し、区民の中に環境への意識が根づいている。

- ① 区民が環境に配慮し、自家発電を行うなど環境負荷をかけない生活を実現している。
- ② ごみが適正に収集され、まちの景観が保たれている。